

## 長岡市・関係団体共同記者発表要旨

日 時：令和元年7月25日（木）午前11時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【発表項目：「地域活性化包括連携協定」「長岡花火オフィシャルパートナー協定に  
基づく取り組み 「長岡花火」記念商品 発表会】

出席者：長岡市長 磯田 達伸

一般財団法人 長岡花火財団 理事長 高見 真二

株式会社セブン・イレブン・ジャパン

オペレーション本部

新潟・北陸ゾーン ゾーンマネージャー 竹之内 信也

商品本部

新潟・北陸地区 チーフマーチャンダイザー 山村 賢史

（司会）

ただいまから、長岡市とセブン・イレブン・ジャパンとの「地域活性化包括連携協定」及び「長岡花火オフィシャルパートナー協定」に基づく「長岡花火」記念商品発表会を始めます。

長岡市とセブン・イレブン・ジャパンは、長岡市の地域活性化及び市民サービスの向上を図ることを目的に、地域活性化包括連携協定を平成29年3月16日に締結しました。また、昨年7月5日には長岡花火財団と長岡花火オフィシャルパートナー協定を締結しました。両協定に基づき、「長岡花火」記念商品を販売する運びとなったものであります。

初めに、磯田市長がごあいさつを申し上げます。

（長岡市長）

セブン・イレブン・ジャパンさんとは、平成29年3月の協定に始まって、去年は長岡花火財団のオフィシャルパートナーになっていただきました。去年に引き続き、記念商品を発売していただけるということで、今年はどうな新しい商品を開発されたのかなど、私も楽しみにしています。

記念商品の売り上げの一部は、長岡花火のフェニックス花火にご協賛いただいでいて、去年は30万円以上の協賛金をいただいでいます。改めて感謝を申し上げます。

この記念商品は、非常に好評と伺ってしまして、そういう意味では長岡のうまいもの、地場産品のPRにも大きく寄与していただいでいるのではないかと考えています。

長岡花火はご承知のように、5年連続で100万人を超える入り込みですので、これを機会に花火だけ

ではなくて、長岡の食べ物、食材が多くの人に味わっていただける、知っていただけるということは、長岡の観光やインバウンドの増加などの意味でも大変ありがたいことです。

セブン-イレブンさんの、国内でもトップクラスの商品開発力で、長岡に着目して記念商品をつくっていただいたということ、心から感謝申し上げながら、これからも連携を深めさせていただきたいということをお願いして、私のあいさつとさせていただきます。

**(司会)**

続きまして、長岡花火財団理事長、高見真二様からごあいさつをお願いします。

**(高見)**

このたびセブン-イレブン・ジャパンから、また新しい商品開発をしていただいたということで、本当にありがとうございます。長岡花火財団は、長岡花火を題材に地域の振興を図る活動も行っているところです。セブン-イレブンという非常にメジャーな販路に対して地域の食材が提供できて、販売していただけることは、長岡の発信という意味では非常に財団の趣旨に合った展開をしていただいております、大変感謝しています。

かぐら南蛮などは生産が追いつかないくらい売っていただいたというお話も聞いていますし、生産者も非常に喜んでいるということで、地域の振興にもご協力いただいております。かつ、売り上げの一部を花火財団にいただけるということで、大変ありがたい取り組みであると思っています。

今年もたくさん売れて、長岡のこと、そして花火のこと、長岡花火の想いも広く普及していただければとご期待申し上げます。

**(司会)**

株式会社セブン-イレブン・ジャパンオペレーション本部、新潟・北陸ゾーンのゾーンマネージャー、竹之内信也様、ごあいさつをお願いします。

**(竹之内)**

本日は長岡花火の記念商品の発表会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

先ほど司会の方からもございましたとおり、平成29年3月に、長岡市様との地域活性化包括連携協定を結ばせていただきまして、今年が3回目の取り組みです。

この日本を代表する長岡花火大会を記念して、今年もパワーアップして、明日から7品を販売します。

このうち、地元食材のかぐら南蛮を使用したおむすび、また地域を代表するメニューである冷たい生姜醤油ラーメン、今年はチャーシューをたっぷり乗せています。これらの2品は、先ほど申し上げましたフェニックス花火の協賛対象商品として、お客様がご購入の際に寄附金が集まるということで、皆さまが参加できる仕組みになっています。

また、今年には吉乃川様とも連携させていただきまして、花火の模様を冠したオリジナルパッケージのお酒をご用意しました。今年の花火大会は金曜日、土曜日ということで、例年になく数多くのご来場者の方が期待できると思っています。その中で、長岡市民の方はもとより、市外、また県外のお客様

様がこの商品を通じて長岡を感じ、楽しんでいただけると確信しています。

また、セブン-イレブンは「近くて便利」をスローガンに掲げていますが、それはやはり地域のもとに成り立ち、そして地域に根差して商売をしていくということだと思っています。行政、または地域の方と連携して、そして地域の方の利便性を追求し、地域に根差した商品を開発していく、このことを加盟店のオーナー様と一緒に取組んで盛り上げていく、このことが大事だと思っています。

長岡花火大会は、それを象徴する取り組みだと感じています。今後も地域社会の課題解決、また今後のますますの連携の強化をお願いして、私のあいさつとします。

#### (司会)

それでは、長岡花火記念商品の説明と試食に移ります。

説明は、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、山村さんが行います。

#### (山村)

まず1品目は、「新潟づくし！こだわりおむすび かぐら南蛮味噌」118円の商品です。

こちらは、長岡野菜であるかぐら南蛮を使ったおにぎりです。中具には、山古志産のかぐら南蛮を使用した味噌を使っています。地元のご意見を聞きながら、しっかりとした辛みとうまみの両方が味わえる仕立てとなっています。

#### (高見)

かぐら南蛮の辛みがきちんと生かされていて、ひりひりします。でも、これが本当においしいかぐら南蛮だということで、地元の気持ちを裏切らない、おいしい辛さだと思います。

#### (長岡市長)

山古志というか長岡の山の風景が浮かぶような、ちょっと青臭いような香りがある、これは本当にこの企画商品ならではの味になっていると思います。やはり辛いですね、この辛みがうまい。

#### (山村)

2品目は、「チャーシュー盛り！冷し生姜醤油ラーメン」550円の商品です。長岡名物の生姜醤油ラーメンを冷たい麺で仕立てました。たっぷりのスープと麺に加えて、厚切りチャーシューを4枚入れた非常に食べごたえのある商品です。生姜の風味をしっかり出すため、工場ですりおろした生姜を加えています。しっかりと生姜の風味が感じられる仕立てとなっていますので、ぜひお楽しみください。

#### (高見)

大変生姜の香りが残っていておいしいです。

#### (長岡市長)

長岡にとって生姜ラーメンは普通の食ですが、冷やしで食べるというのはなかなか新鮮です。生姜がもう少し効いててもいいかなと思いますが、それは私の好みで、実にバランスのとれた、チャーシューもあまり油の入っていないところを使っていますので、冷やしにはぴったりのチャーシューにな

っていると思います。すばらしい仕上がりだと思います。

**(山村)**

3品目は「酒粕仕立て！鶏モモ肉の越後味噌焼丼」、496円です。発酵のまち・長岡にちなんだお弁当をつくりました。酒どころ長岡らしく、酒粕を使った鶏モモ肉の味噌焼です。酒粕を塗り込むことで、鶏肉が非常にやわらかく、ジューシーな味わいとなっていますので、この風味と食感をぜひご確認いただければと思います。

**(高見)**

発酵は長岡の大きなテーマになっていまして、味噌、醤油、お酒など、長岡の食の魅力の大きな柱が発酵食品だと思っています。

そういう中で、そういうメッセージ性も含めて、「なぜこれが長岡なのか」というのを考えていただくきっかけとしても大変素晴らしい商品だと思います。

今、長岡市でもサフラン酒本舗を中心に「発酵のまち・摂田屋」を一つの拠点として考えています。長岡が発酵文化を発信していく大きなきっかけとしてもいい商品をつくっていただいたと思います。

**(長岡市長)**

酒粕に漬けた鶏肉が濃厚な味で、暑いこの季節にぴったりじゃないかなと思います。よく食べる照り焼きの鶏肉とは違って、酒粕、味噌の味がしっかり入っている。夏に食べるにはいい丼だなと思いました。

**(山村)**

続きまして、4品目は「生姜醤油仕立てのチキン竜田バーガー」300円です。おなじみ、長岡の生姜醤油ラーメンの味を空揚げに仕立てたハンバーガーです。生姜風味が効いていて、夏でもさっぱりと食べていただけます。

**(長岡市長)**

結構柔らかくて、見た目よりずっと食べやすく、味もしっかりついています。生姜味が非常においしいです。

**(山村)**

続きまして「洋風カツバーガー」224円です。長岡市でおなじみの洋風カツをイメージしたハンバーガーです。非常にボリュームがあり、かつ濃厚でありながらも、たっぷりのデミグラスソースで食べ進みのいい商品です。

**(高見)**

お店によっていろいろな洋風カツがあり、それぞれ味が違う中で、ちょっとイメージしていたのと違ったのですが、デミグラスソースの洋風カツということでおいしくいただけます。

**(長岡市長)**

224円という値段ですが、この中に入っているお肉は非常においしいです。これは非常にお得感があ

るなと思いました。

(山村)

次に、「笹団子みたいなもこ」140円です。セブン-イレブンで人気の、もちりとした食感の独自のシュー生地を使ったスイーツです。皮にはヨモギを加え、笹団子の色をイメージしました。中に、こしあんとホイップクリームを入れることで、非常に口どけのよい仕立てとなっています。

(高見)

こういった商品開発はどこでされるのでしょうか。

(山村)

弊社の開発部門と、商品をつくっていただいている工場の皆様のいろんなご意見を集めながら、繰り返し、繰り返し試作をして仕上げました。

(高見)

長岡にも米菓を中心に食品産業があるのですが、こういう商品を開発する仕事の拠点を、ぜひ長岡に置いていただきたいと思います。

(長岡市長)

すごくいい食感です。これは本当にヨモギを入れているのですよね。これは定番商品にしてほしいと思いました。とてもいいスイーツです。

(山村)

最後、説明だけですが、お酒です。「吉乃川 酒蔵の淡雪ゆずスパークリング花火デザインラベル」486円です。地元・吉乃川様の定番商品「酒蔵の淡雪」にゆず風味を加えた新商品です。こちらは、セブン-イレブン限定の花火パッケージですので、店頭でこの花火パッケージを展開しながら花火を盛り上げる、こういった取り組みにもつなげていきたいと考えています。

(司会)

それでは質疑応答に入ります。ご質問のある方は、挙手をお願いします。

(記者)

昨年が一番の売れ筋は何だったのでしょうか。

(山村)

かぐら南蛮のおにぎりです。次に、冷たいラーメンが好調でした。

(記者)

今年のおにぎりには焼きのりがついていないですね。昨年のおにぎりにはあったと思うのですが、原材料を抑えるためでしょうか。

(山村)

お米とかぐら南蛮の味噌、この二つの味をシンプルに味わっていただきたいということで、あえて焼きのりを外しました。やはり中具にこだわった商品ですので、そこを特に味わっていただきたい、

そういった意図です。

(記者)

セブン-イレブン・ジャパンと地域活性化包括連携協定を結んで3年目ということですが、イトーヨーカドー丸大がなくなったというところで、協定など何か影響はあったのでしょうか。

(長岡市長)

あまり影響は感じたことはありません。

私たちとしては、これから花火館で地場産のいろいろなものを食べていただく、買っていただく動き始めた中で、セブン-イレブンさんから、毎年いろいろなアイデアを詰め込んだ商品を見せていただく、売っていただくということは、長岡産野菜、長岡野菜を生かす手法はいろいろあるんだなということを感じています。

そうした商品開発力というか、食品、食材のイノベーションの最先端の体験をさせてもらっているなという思いでして、ぜひまた今後、セブン-イレブンさんからこういった提案をいただきながら、さらにもう一歩進んで、例えば観光向けだけじゃなくて、その地域の高齢者や子どものためとか、少し視点を変えた商品開発を、全国展開の一つのお試しの場として長岡を使っただけであればと思っています。

(記者)

セブン-イレブンさんとして、花火の期間中は駅前にあったイトーヨーカドーが一番売れたのではないかと思うのですが、今回、あそこがなくなったことで、商品を販売する工夫はされているのでしょうか。

(竹之内)

私たちとしては、商品のアイデアも含めてセブン-イレブンの加盟店様と対応している状況で、イトーヨーカドーさんの販売を前提にした商品開発はしていませんので、なくなったことによる影響は全くありません。

販売については長岡のイベント、長岡の商品ということで、加盟店オーナーさんも非常に盛り上がっていますので、売り場展開としても非常に強化しやすいのかなと考えています。

(記者)

販売は県内のセブン-イレブンだけなのでしょうか。長岡市としては、県外に売ってほしいと思うのですが、いかがでしょうか。

(竹之内)

今回は、大花火大会を前後した商品の発売計画です。花火大会には約100万人以上、特に今年の曜日回りを考えると、さらに多くのお客さんもいらっしゃると思いますので、まずはそこを販売の機会にするということです。加えて、原材料を含めて生産キャパシティがありますので、状況に応じて拡大ができればと思っていますが、まずは県内で販売するという状況です。

(記者)

今までの3年間の中で、新潟県以外で記念商品を買った実績はあるのでしょうか。

(竹之内)

県内で期間を変えて発売するということはありましたが、県外での販売はありません。

(記者)

今年で3年目の取り組みということですが、商品数の増減についてお聞かせください。

また、3年の中で共通したのものがあるとしたら、まったく同じものなのか、リニューアルしているのかも合わせてお聞かせください。

(山村)

3年前は5品、去年は6品、今年は7品の商品を開発しています。同様なものは、おにぎりや冷たいラーメン、それ以外のものは全く新しい仕立てとなっています。

(記者)

竹之内さんの最初のあいさつで、地域社会の課題解決に取り組んでいきたいとお話がありましたが、具体的にはどのようなことでしょうか。

(竹之内)

全国規模の問題ですが、少子高齢化の中で、例えば高齢者のコミュニティの問題、働く場所の問題ということもありますので、そういった連携もぜひ考えていきたいということ。それと、子どもという部分においても、何かしらの後方支援の取り組みができるのではないかと考えています。

(記者)

今回のこの発売が、地域の発展、地域の貢献にどのようなつながっていくと思われますか。

(竹之内)

地域の食材を使用することは、一つの地域の活性化にはつながり、そして、その食材の良さ、メニューの良さを通じて地域住民の方に購入していただくことは、地域社会にプラスになってくると思います。

また、この時期、「長岡花火」は最も長岡を象徴するものだと思っていますので、おいでになる県外のお客様に、花火だけではなくてさまざまな食材、メニューを知っていただくことは、地域の活性化につながると思います。

あくまでも第一歩ということですので、今後、花火以外のさまざまな部分でも連携させていただきたいと考えています。

(記者)

セブン-イレブンさんに伺いたいんですけども、年々、品数を増やしていらっしゃると思いますが、こういった一つのイベントの記念商品で6品、7品をつくるのは一般的なのでしょうか。

(竹之内)

全国の細かいところまでは承知していませんが、非常にレアケースです。地域活性化包括連携協定の記念商品は各地域で行っていますが、こういったイベントを記念した商品で、今回のように7品ということは、あまりない事例だと思います。

(記者)

そういった中で、長岡花火でこれだけ商品をつくれるのは、何か理由があるのでしょうか。

(竹之内)

当然、地域の活性化という前提、長岡花火を盛り上げるという前提がありますが、特に長岡エリアの加盟店舗様が非常に盛り上がっているということ。やはりその地域の商品、セブン-イレブンだけの商品を発売できるということは、加盟店の皆様は非常に喜んでいただいていますので、より多くの商品を出すことによって、売り場も活性化できるのではないかと考えています。

(記者)

長岡花火のブランド力について、どうお考えでしょうか。

(竹之内)

すごい一言です。

(記者)

フェニックス花火の協賛金について、目標額をお聞かせいただけますか。

(竹之内)

昨年の協賛金は35万2800円ですが、商品がより多く売れて、より多く協賛ができればと思っています。

(記者)

改めて、この商品に込めた想い、また地域への想いをお聞かせください。

(竹之内)

日本を代表する「長岡花火」に、私たちセブン-イレブンも参加させていただくということは、非常に喜びが多いです。その中で地域の方々、そして県外からお越しになる方々に、この長岡の食材、商品、メニューを1個でも多くお買い上げいただき、そして知っていただき、食と花火、トータルで楽しんでいただきたいと思います。

あわせて、私たちとしては、加盟店のオーナー様や従業員の皆さまが、「地域の取り組みなんだ」ということに強い想いを持っていますので、そういった中でも一丸となって取り組みたいと思います。

(記者)

市長が試食された中で、お勧め商品をお聞かせください。

(長岡市長)

おにぎりや冷し生姜醤油ラーメン、これはもう定番商品のような感じで、どなたが食べても納得する味ではないかなと思います。あと、「洋風カツバーガー」は非常に食べ応えがあってお安いし、ス

スイーツの「笹団子みたいなもこ」もお勧めです。

(記者)

この商品販売にかける期待をお聞かせください。

(長岡市長)

長岡の食や食材を多くの方々に知っていただくということは、生産者、食品関係、飲食関係の方々にとって、非常に元気の出る取り組みだと思います。

長岡の食材は豊富で、ここに出ている以外にもたくさんありますので、今後もセブン-イレブンさんにはこうした長岡花火の企画をさらにいろいろな形で発展していただければありがたいと思っています。

(記者)

7商品のうち、フェニックス花火の協賛商品が二つである理由をお聞かせください。また、協賛は昨年も二つでしょうか。

(竹之内)

すべての商品が協賛ということになると、協賛であることが目立たなくなりますので、数的に最も多く売れる2品を選定しました。昨年もおにぎりと冷し生姜醤油ラーメンの二つが協賛商品です。

(記者)

先ほど、地域展開で7品は多いというお話がありましたが、通常ですと何品くらいなのでしょう。

(竹之内)

正確な数ではありませんが、4品、多くて5品くらいだと思います。

(記者)

店舗では、長岡花火記念商品であることがわかる共通のマークがあるのでしょうか。

(山村)

花火の絵が入った共通のイメージを商品ごとに添付します。

(記者)

のぼりなどはあるのでしょうか。

(山村)

のぼりはありませんが、各店舗で手づくりの掲示物を含めて準備しています。また、チラシを全店に配布して、お客様にお配りしながらお知らせします。

(記者)

かぐら南蛮は、どういったルートで生産者につながったのでしょうか。

(山村)

弊社の商品をつくっていただいているメーカー様は、全て地元の企業、地元のネットワークを持っています。そういったところから生産者につながりを持たせていただいて、原材料を調達しています。

(記者)

そのメーカーさんは、長岡のメーカーさんなのでしょうか。

(山村)

一部、全国展開されているメーカー様もありますが、県内、長岡に拠点を持ったメーカー様に対応していただいています。